

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春里中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着の個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を検討していきたい。また、次年度の改善策としては、基礎的・基本的な知識・技能の定着を深めるために、スタディサプリを用いて基礎的・基本的な知識・技能の定着を全学年で重点的に取り組んでいく。
思考・判断・表現	日々の授業において、生徒の活動量が実感として増えたことがわかるが、市学習状況調査による思考・判断・表現の観点において課題が見られる教科があることがわかった。特に、国語・数学・理科においては、市平均を大きく下回っており、課題である。引き続き、各教科において、話し合い活動の充実をはかり、生徒が主体となって考える場面を増やしていく。また、校内研修を通して、思考・判断・表現の観点を身に付けさせる授業研究を行っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 令和6年度さいたま市学習状況調査の知識・技能の学校平均正答率が、市平均正答率を下回っている教科が学年問わず多くを占めている。 <指導上の課題> 生徒が自ら学びを振り返る時間を確保できていない。	・ドリルパーク「スタディサプリ」等を活用し、基本的な計算等の反復に取り込むことにより「個別最適な学び」を推進する。【通年・隔週】 ・毎日の記録授業アンケートを活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。【通年・未来くるタイム実施時】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習に対して意欲的ではない場面が見られる。 <指導上の課題> 生徒主体の学びとなるような授業が少ない。	・定期テスト前に学習会や質問会を設け、学習スペースによる自主学習を促す。【通年・定期テスト前】 ・家庭学習において、スタディサプリやドリルパークの活用を促す。【通年・長期休み毎】 ・「学びの指標」において「主体的な学び」の項目を、年度内調査において向上させる。【通年・2回】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」は、今年度から朝の学習の時間や長期休みの宿題に、意識的に活用することにより月次アクティブ率が、全国や市の平均を上回る月ができた。毎日の記録授業アンケートでは、毎日打ち込む時間を学校で設定し、一日の学習を振り返る習慣が定着している生徒が多い。
思考・判断・表現	B	定期テスト前への学習会や質問会を学年ごとに実施することができた。また夏休みの宿題にスタディサプリを積極的に活用することができた。「学びの指標」において「主体的な学び」の項目を、年度内調査において向上させることができ、さいたま市の平均も上回ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に關する事項」では、正答率が全国平均に比べて2%低い。日頃から授業内でも漢字テストを繰り返し行っているものの、ICTを利用しての学習が増え、書く回数が減っていることも要因の一部と考えられる。そのため、朝学習の時間にもタブレットにペンで記入する課題も今後も取り組ませいく。理科では「生命を柱とする領域」の正答率が全国平均に比べて6%高い。全国学力・学習状況調査の直前に学習していた範囲だったことのあるので、繰り返し復習をし、定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	国語では「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを書く問題」や「考えた理由を書く問題」では、正答率が低く、さらに無解答率も他の問題に比べて高いことから文章の組み立て方を理解していないため、書き始めることができないことが原因の一つだと考えられる。数学では、「知識・技能」の項目は平均と変わらない正答率に対して、「思考・判断・表現」の正答率が4%低い。このことから、授業内で他者と問題解決に向けての思考の過程を共有するとともに、多くの問題に触れながら思考力をはくく必要があると考える。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(学年・教科別)の実態把握

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	さいたま市の平均と比べると、国語・数学・理科、社会すべての教科で市平均をやや下回る結果となった。無解答率は市平均よりも低く、学習に対する意欲がみられる。既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	多くの教科で市平均よりも無解答率が低かった。各教科で自分の考えをもたせ、学習の足跡を残す指導を積み重ねた成果であると考え、今後も考え方を言葉で説明する活動に重きをおいていく。教科横断的に、異なる考え方をもち人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」は、今年度から実施している。朝の学習の時間を中心に意識的に活用することにより、昨年度に比べて実施率が向上している。毎日の記録授業アンケートでは、毎日打ち込む時間を学校で設定し、1日の振り返りを行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	定期テスト前の学習会や質問会を行い、生徒自身が参加する教科や学習内容を決め、主体的に学習をさらに深めるために取り組むことができていく。その反面、毎回同じようなメンバーが参加している実態があるので、より多くの生徒が参加するように引き続き声かけを行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)